

## 巻 頭 言

秋田県立大学システム科学技術学部 学部長  
松本 真一

本誌ウェブジャーナル A も創刊以来、3年目を迎え、ここに配信するのは第3号である。本誌が刊行に至った経緯と目的については、創刊号および第2号の巻頭言において、小間学長と小嶋理事がそれぞれ詳しく述べておられる。不躰ながら、それらを要約すると以下のとおりである。

「開かれた大学として、秋田県の持続的発展に貢献」するというのが本学の基本理念のひとつであり、多くの教職員が、教育・研究・地域（社会）貢献の各分野でさまざまな活動に積極的に取り組み、この理念に適う多くの成果を挙げてきている。本学の学部・大学院学生も、研究や地域（社会）貢献分野を中心にこの理念を意識した活動を展開している。しかしながら、「秋田県の持続的発展」に直結するはずの地域貢献の成果の発信媒体が限定されていたためか、多岐にわたる成果を十分に発信できていなかった憾みがある。そこで登場したのが、本ウェブジャーナルである。すなわち、インターネットを通して、本学の地域貢献活動の成果を秋田県内のみならず広く世界に発信することが刊行・配信の目的である。なお、一部の方々には、一定部数を冊子体で印刷することにより、書物のかたちでも読んでいただけるようにもしている。

さて、本号には12編の論文が掲載されている。失礼を承知で全体的な印象を私見として述べたい。おそらく、一般化された新しい知見という観点からは既往の学術誌への掲載になかなか馴染まない内容の論報が少なくないのではなかろうか。しかしながら、「秋田県の持続的発展」という観点からは極めて重要な課題への真摯な取り組みであることは間違いない。もちろん、既往の学術誌へ投稿する手立てもあるのであろうが、その場合、知見をお伝えしたい対象読者にかなりずれがあるのではなかろうか。別の言い方をすれば、どの論文をとっても、特に秋田県民の皆様にお伝えし、ご理解を頂きたい内容となっていると考える次第である。

このウェブジャーナル A を通して、地域に貢献する大学としての本学の存在感（プレゼンス）が学外におられる読者の皆様に伝わること、学内においては、例えば農工連携などの新たな地域貢献につながる既往の研究分野を横断するような教職員相互の共同研究へと展開するきっかけが生まれることを願ってやまない。

2016年3月